

1 ペソの内職

会員 藤川 豊

真っ青な空と蒸しかえるようなミンダナオ島は5年ぶり通算22回目の訪問。HANDSの会員としては2回目。ジェネラルサントス空港に降り立つと田舎に帰省した思いがする。

同島でダバオに次ぐ人口を擁するジェネラルサントス市は2007年の国勢調査で53万人、フィリピンで8番目の大きな町だ。年率6%を越す経済成長を遂げるフィリピン経済の恩恵を受けるかのように、この町にも3つのモールが新しく出来ていた。店内は清潔で明るく夏休み中の子供たちで賑わっていた。それにしてもフィリピンはどこに行っても子供達で溢れており羨ましいかぎり。やがては発展著しい東南アジア経済の一翼を担ってゆくのだろう。

今回も代表の山崎さんに同行した。滞在中レンタカーの三菱ピックアップ4輪駆動車で我々を案内するドライバーは、前の車を追い抜くのが使命とばかりに飛ばしに飛ばす。出かける前に旅行保険を掛け忘れたことを悔やんだ。

訪れた山間の集落のひとつボルルールではすでに大勢の村人たちが持ちうけていた。そこには20センチくらいの細い竹串が山のように積まれていた。聞くと焼き鳥用の串だという。100本を一束にして業者に売るのが、一束がたったの1ペソ、訪問時のレートで2円50銭。いくらなんでもそれはないだろうと思うがそれが現実だ。

フィリピンの物価は近年高騰を続けている。ガソリン1リットルが125円、米1キロが85円とも5年前に比べると4割近く上がっている。2012年改訂の最低賃金は最も高いマニラ首都圏で一日456ペソ(1,140円)南部ミンダナオ島で301ペソ(750円)2年前と比べるとマニラで7%、南部ミンダナオ島で3.4%の賃金上昇率に過ぎない。物価上昇と比べると焼け石に水だ。

「人の痛さは我慢できる」というが、飽食と怠惰な生活にどっぷり浸かった私はこの集落で生活したら、何日耐えられるだろうか。たとえ一束1ペソでも、刃が波打つほどに擦り減った切れないカッターナイフで黙々と作り続け生活の足しにする、それがこの集落に生きる人々の現実だ。

ミンダナオ島を初めて訪れたのが33年前。大きな町は着実に発展を遂げているが、一步山間部に足を踏み入れるとその実感はあまりない。我々の活動は大海の一滴に過ぎないが、その一滴を必要とする人々がいる限り、知恵と汗と少なからずのお宝が必要だ

第13回 (平成25年度) 通常社員総会の報告

前号でご案内の社員総会を、予定通り6月8日(土)13:00から、青葉区区民活動支援センターにおいて開催しました。社員会員44名のうち、35名(うち委任状出席は27)の出席があり(他オブザーバー1名、スタッフ2名)、古川議長のもと、すべての議案が審議・承認されました。以下は主な審議事項です。

- 1) 2013年度予算案収入の「寄附・一般」に計上の「JOFPA基金」(JOFPA解散にともなう残余資産)について:6月8日時点では金額が確定していないこと、また、その用途について、JOFPA最終総会の決議内容を、予算案策定にあたった事務局が十分把握できていなかったことなどから、2013年度に支出する金額は予算案のままとし、その用途詳細は、基金の額が確定する8月中旬以降に、理事会の審議を経て決定する。
- 2) 同じく、予算案収入の「寄附・教育支援」及び支出の「人材育成事業」費に医大生奨学金関係が含まれていない等の指摘があり、予算案収支の修正は事務局に一任いただくことで承認された。
- 3) 新理事の選任:定款で5-7人と定める理事について、元JOFPA副会長の河原氏(2年前からHANDS社員会員)を7人目の理事として選任した。(任期は1年)

審議終了後に現地訪問報告会を開催し、「選挙終了1週間後のミンダナオ島HANDS事業地域を訪ねて」のテーマのもと、現地で得た情報や写真を共有させていただきました。

<総会の詳細ご希望の社員会員は、議事録コピーをお届けしますのでご連絡ください> (事務局 山崎)